

環境報告書 2014



株式会社駿河生産プラットフォーム



Contents

- ごあいさつ
- 環境方針
- 環境管理体制
- 環境パフォーマンス
- 環境目的・目標
- 環境改善活動
- 環境監査
- 会社概要



ごあいさつ

弊社は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに環境配慮型製品の開発、生産活動の効率化に推進してまいりました。2001年にISO14001を全事業所で認証取得し、2010年には、関連会社全てに環境マネジメントシステムを拡大しました。これにより汚染の予防、法令順守、廃棄物の削減、及び省エネルギーなどの環境課題に計画的に取り組んでいます。

環境問題は地域的な問題から、地球温暖化・循環型経済社会など地球規模への問題へ変化してきています。弊社は海外生産拠点を含む全事業所で事業活動から生じる環境負荷の低減に努め、持続可能な社会と環境のために貢献して行きます。

これからも環境保全活動の推進を通じて、事業の成長と社会貢献の両立を実現し、地域社会に望まれる企業として持続的発展を遂げていきたいと考えています。

このたび弊社の環境保全活動の取り組みを知っていただきたく本報告書を作成致しましたので、ぜひご一読いただき、忌憚の無いご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長 岡本 道明



環境方針

当社は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに関係者への環境教育を行い、環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

以下の5つの項目について自主ガイドラインを設け、環境負荷削減に向けて、一層の環境保全に努めます。

尚、定期的に環境影響評価を実施し、環境目的・目標を定めて環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

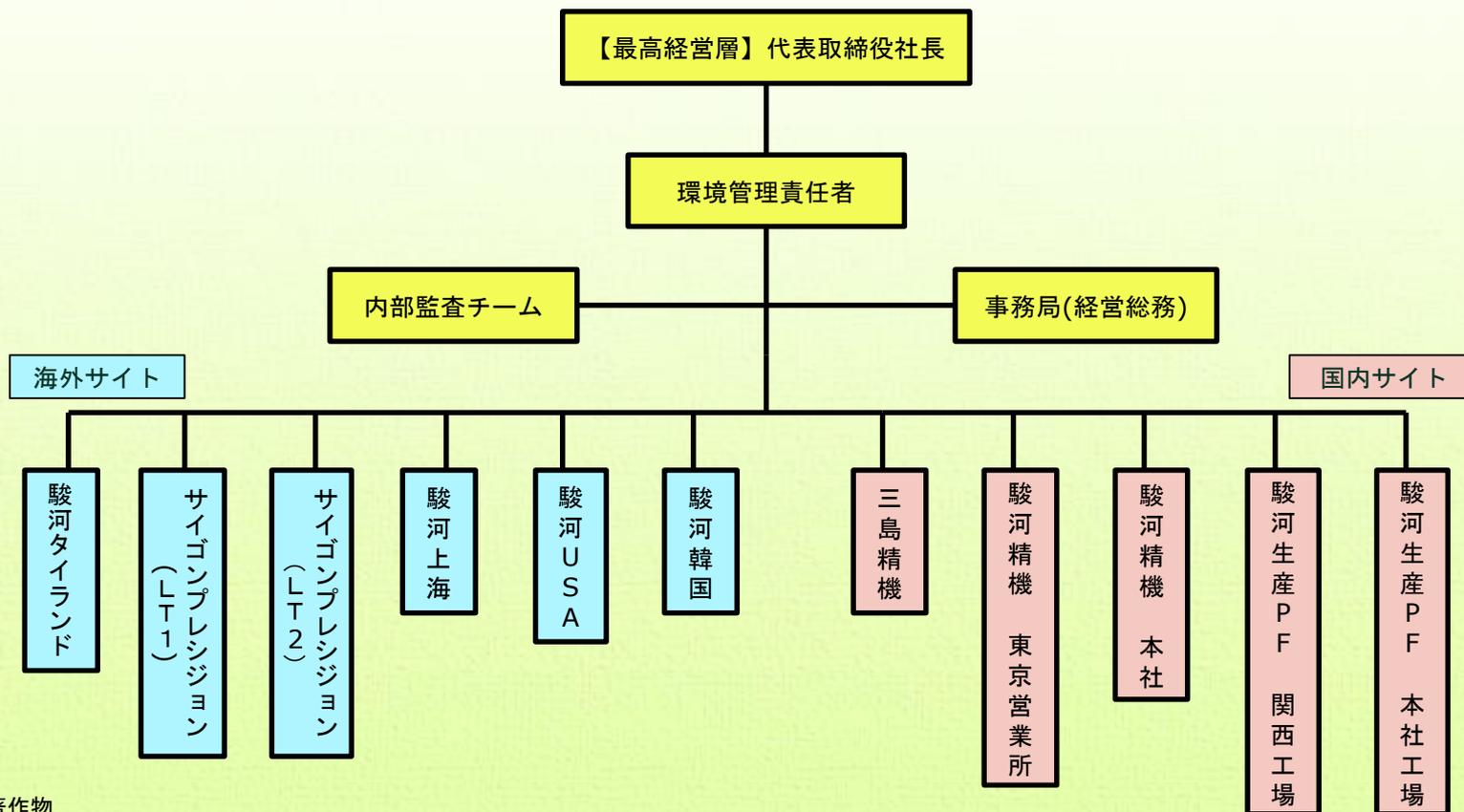
環境方針は一般に公開します。

1. 特定化学物質非含有管理と代替化推進
2. 環境汚染の予防
 - 1) 油類・有害物質の漏洩
 - 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ
3. 廃棄物のリサイクル率の向上
4. 環境負荷の少ない商品開発
5. 省エネの推進

環境管理体制

当社における環境活動組織図

2010年度より、グローバル環境マネジメントシステムを導入し、関連会社を含む全社的な環境活動の組織体系を確立し、運用を開始しています。



環境パフォーマンス

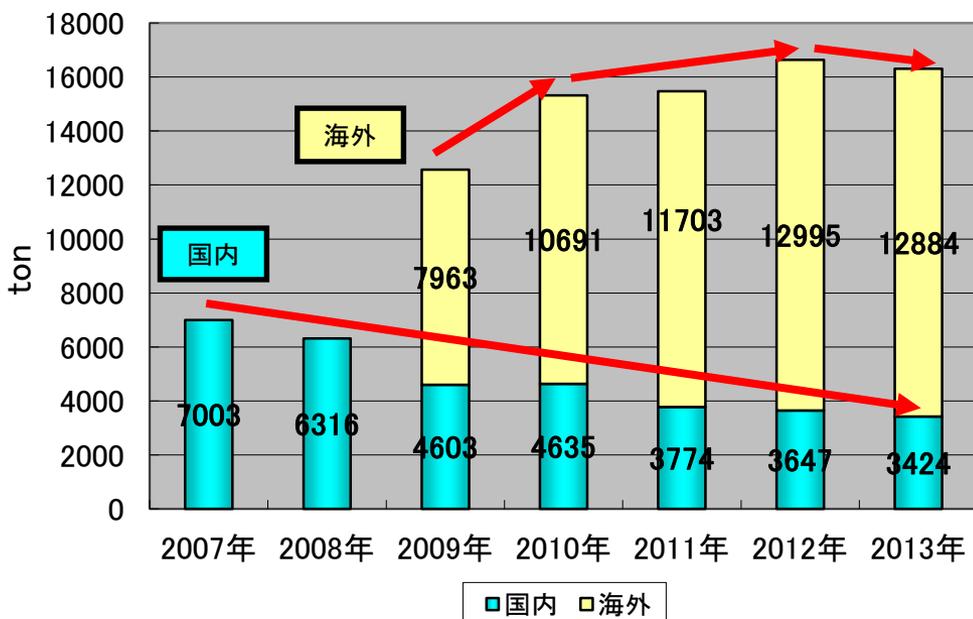
2013年度の結果

	国内 (駿河生産PF, 駿河精機,三島精機)	海外	合計
電気	7,196 MWh	27,266 MWh	34,462 MWh
ガソリン	9,988 ℓ	6,069 ℓ	16,057 ℓ
灯油	9,638 ℓ	0 ℓ	9,638 ℓ
都市ガス	92,997 m ³	22,031 m ³	115,028 m ³
LPG	2,200 m ³	37,080 m ³	39,280 m ³
LNG	0 m ³	299,500 m ³	299,500 m ³
水	14,919 m ³	92,871 m ³	107,790 m ³
廃棄物	381 t	2,242 t	2,623 t

環境パフォーマンス

CO2排出量

CO2排出量年度推移



国内では2012年から約6%の削減。海外では約1%の削減。

全社では2012年から約2%の排出量減少。原単位(売上ベース)では前年度より約10%良化している。

環境パフォーマンス

● 電力消費量

電力消費年度推移



【国内】・・・大型設備投資、事業改善による省エネ

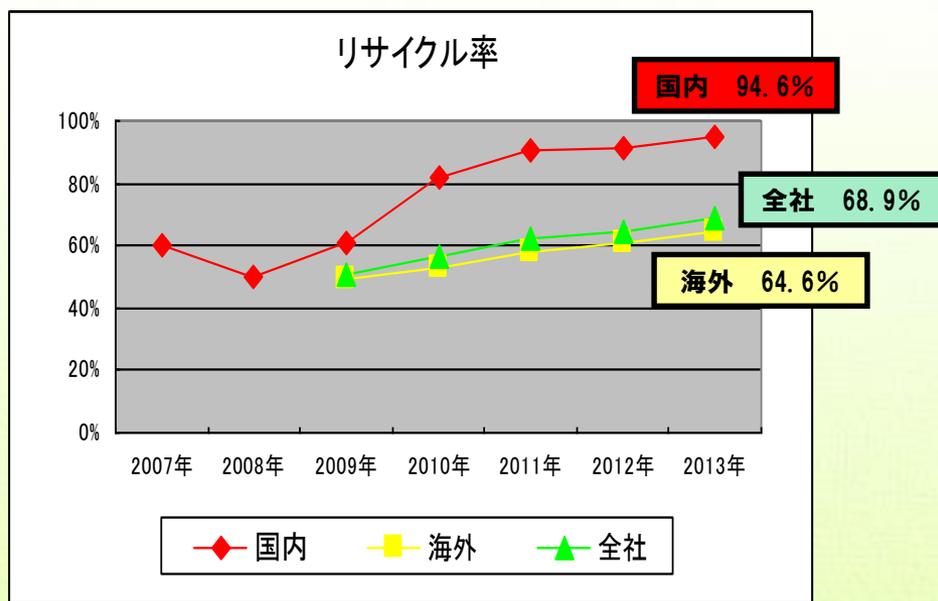
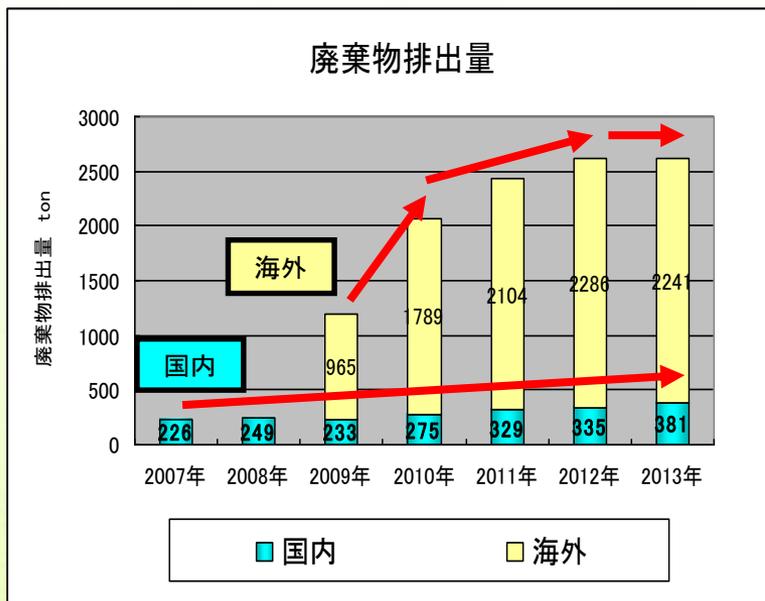
- 2007年
 - ・関西工場 ミスミ生産パークへ移転
 - ・本社工場 エアコンを省エネタイプに入替え
- 2009年
 - ・いわき工場 IFT事業撤退
- 2010年
 - ・本社工場 新工場を1ヶ所に統合し省エネ構造及び省エネ機器使用によるエネルギー使用の合理化
- 2012年
 - ・いわき工場 工場閉鎖し関西工場へ事業移管

【海外】・・・新工場稼働による電力消費増加

- 2011年
 - ・SPC-LT1 第3工場稼働
 - ・SSH 新工場稼働
- 2012年
 - ・SPL 工場閉鎖
- 2013年
 - ・SPC-LT2 新工場稼働

環境パフォーマンス

廃棄物排出量とリサイクル率



国内では廃棄物排出量に大きな変動は無く、リサイクル率は90%以上を維持している。
海外では事業拡大により廃棄物排出量は増加している。リサイクル率については改善傾向にあり取り組みの成果がでている。

環境目的・目標



No	環境目的	環境目標 FY2013	環境目標 FY2014	環境目標 FY2015
1	特定化学物質非含有管理と代替化推進	有害物質削減計画に基づく削減	有害物質削減計画に基づく削減	有害物質削減計画に基づく削減
2	環境汚染の予防 1) 油類・有害物質の漏洩 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件
3	廃棄物のリサイクル率の向上	2012年度比 1%増	2012年度比 2%増	2012年度比 3%増
4	環境負荷の少ない商品開発	DRによる環境負荷評価	DRによる環境負荷評価	DRによる環境負荷評価
5	省エネの推進	2012年度比 原単位当り1%減	2012年度比 原単位当り2%減	2012年度比 原単位当り3%減

環境改善活動

国内工場の廃棄物置場





環境改善活動



国内工場の危険物置場



環境改善活動

海外工場の危険物置場

サイゴンプレジジョン LT1



サイゴンプレジジョン LT1



サイゴンプレジジョン LT2



駿河上海



駿河タイランド



駿河USA



環境監査

環境マネジメントシステムの更新審査を受けました。
(2013年7月16日~8月31日)

【審査結果】

●ISO14001の認証を更新

認証期間:2016年11月16日

対象サイト:駿河生産プラットフォーム本社工場

駿河精機本社

駿河タイランド

サイゴンプレジジョン(LT1)

サイゴンプレジジョン(LT2)

駿河上海

駿河USA

駿河韓国



会社概要

会社概要

2013年3月現在

事業内容 自動化部品関連事業、精密金型部品関連事業、
光関連機器関連事業

本社 〒424-8566
静岡県静岡市清水区七ツ新屋505
Tel 054-344-0311(代表) Fax 054-346-1053

URL <http://www.suruga-g.co.jp/>

創立 1964年5月8日

代表者 代表取締役社長 岡本道明

資本金 491 百万円

従業員数 523名

主要取引先 株式会社ミスミ・株式会社駿河精機・他

取引銀行 みずほ銀行 清水支店
静岡銀行 清水支店

沿革 History

昭和39年 駿河精機工業所を創立

昭和51年 株式会社に組織変更

昭和56年 関西工場を三田工業団地内(兵庫県三田市)に開設

平成 4年 東京営業所開設

平成 5年 本社工場を新設

平成 7年 SAIGON PRECISION CO., LTD.(ベトナム現地法人)設立

平成10年 SURUGA USA CORP.(アメリカ現地法人)設立

平成13年 (上海)有限公司(中国現地法人)設立

平成16年 東京証券取引所市場第二部 上場

平成17年 SURUGA (TH AILAND) CO., LTD.(タイ現地法人)設立
(株)ミスミグループ本社と株式交換により経営統合し、
東京証券取引所市場第二部上場廃止
SPC第二工場竣工(ベトナム)

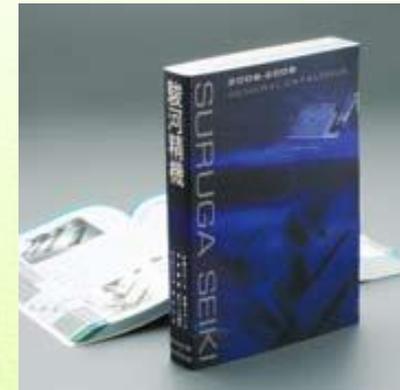
平成18年 三島精機株式会社設立
SURUGA KOREA CO., LTD.(韓国現地法人)設立

平成19年 関西工場を「ミスミ生産パーク」へ移転

平成22年 清水工場(本社)を現住所へ竣工移転

平成23年 駿河精機株式会社を「株式会社駿河生産プラットフォーム」
へ社名変更
OST事業を継承する子会社「駿河精機株式会社」を新設
SPC第三工場竣工(ベトナム)

平成25年 SPC第二工場増設(ベトナム)



対象範囲: (株)駿河生産プラットフォーム、及び関連会社
対象期間: 2013年4月1日～2014年3月31日
次回発行予定: 2015年7月

発行日: 2014年8月1日
問い合わせ先
株式会社駿河生産プラットフォーム 管理部 人材総務T
〒424-8566 静岡県静岡市清水区七ツ新屋505番地
TEL:054-344-0311 FAX:054-346-1053